

特別講演 1

「かかりつけ医における高齢慢性腎臓病（患者）への対応」

JCHO 仙台病院 腎臓病臨床研究センター長

佐藤 壽伸 先生

腎臓は加齢に伴いネフロン数が減少し、その排泄機能が低下する。特に 70 歳以上では、約 3 割が推算 GFR60ml/分/1.73 m²未満であり慢性腎臓病としての対応が求められる。

慢性腎臓病の定義は①尿所見の有無と、②推算 GFR からなり年齢は考慮されない。慢性腎臓病（患）者のうち尿所見を有する者はその推算 GFR 値にかかわらず、ほぼ全てが原因疾患を有すると考えられるべきであり、尿所見を有す場合、高齢者、特に心血管合併症を有する例においては、一般的には積極的な腎生検が回避される傾向にあるが、基本的には年齢にかかわらず積極的に対応する必要がある。

一方、尿所見陰性の慢性腎臓病（患）者においてはどうか？加齢による生理的な機能変化と考えるべきか、あるいは疾患として対応すべきなのか？日々悩むところと思う。今回の講演では皆様の日常臨床の一助となるように、この問題に関する我々の考え、対応を紹介する。